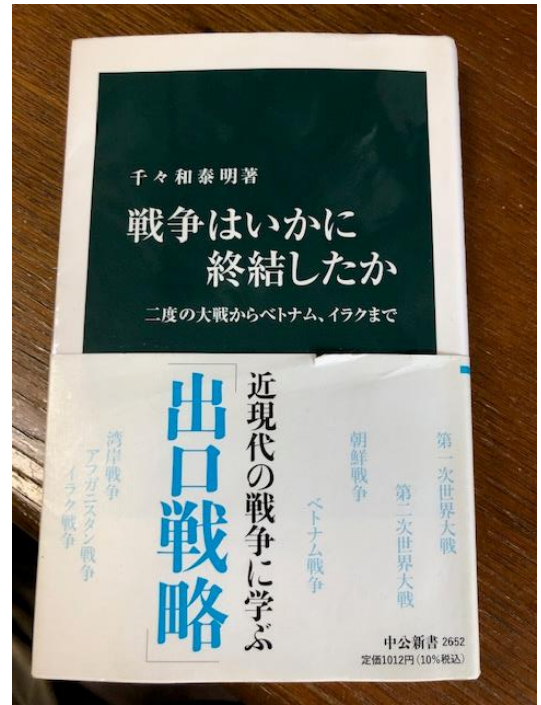


1、「戦争はいかに終結したか 二度の大戦からベトナム、イラクまで」千々和泰明著 2021年7月出版

著者は45歳の防衛省防衛研究所研究官だ。本の帯に近現代史の戦争に学ぶ「出口戦略」とある。第2次世界大戦の悲劇を繰り返さない為に戦争の抑止を追求してきた本だ。先の戦争での日本の過ちは終戦交渉を巡る失敗にもあったと著者はいう。戦争はいかに收拾すべきなのか。2度の世界大戦から朝鮮戦争とベトナム戦争、さらに湾岸戦争やイラク戦争まで20世紀以降の主要な戦争の終結過程を精緻に分析し「根本的解決と妥協的平和のジレンマ」を切り口に、真に平和を回復するための戦争の「出口戦略」を考察している。

2022/2/24に始まる宇露戦争は500日を経過し益々激戦の様相を呈している。両国の死傷者はそれぞれ20万人を超えたようだ。この本は戦争終結のタイプを分類し多くの知見を与えてくれる。6月末のウグネルの乱などロシア内部の脆さが徐々に出てきている。停戦にはロシアの弱体化が不可避だと思われる。また来年の米国大統領選挙や台湾総統選挙も停戦に大きな影響があると考える。

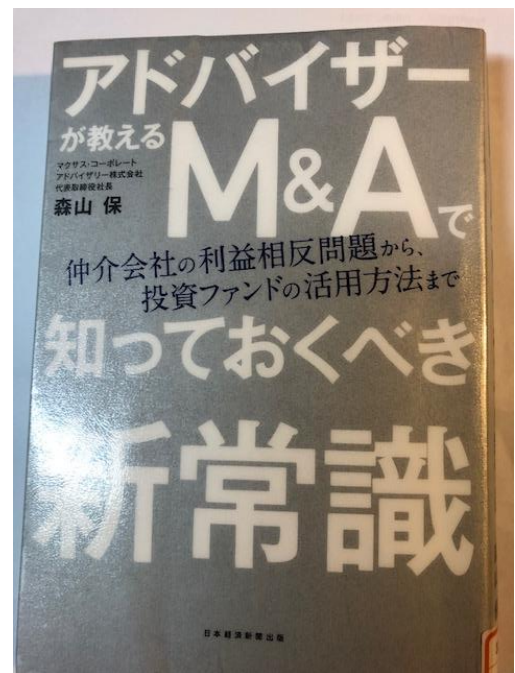


2、「アドバイザーが教える M&A で知っておくべき新常識」森山保著 2022年4月出版

2021年から中小企業 M&A 支援機関制度が始まった。これは中小企業の事業承継問題の解決する手段として M&A が相当一般化してきたが、双方仲介（売り買い双方から手数料を取るもの）や手数料金額を巡ってクレームや不満が多数指摘されていた。中小企業庁がその対策として創出したのが M&A 支援機関登録制度だった。

基本的に不動産の宅地建物取引士の試験資格制度をベースに設計されたものだが、資格試験はなく法人個人共に書類申請で承認される制度だ。登録業者は M&A の売り手買い手への対象企業内容の重要事項説明や手数料の算定根拠などの説明順守義務が最重要要件となっている。そして半年毎の報告が義務付けされている。

さてこの制度は設立当初から「仲介」と「FA（フィナンシャルサービス）」の2本立て申請が可能となっていたことから批判があった。なぜなら M&A で売り手と買い手の両方から手数料を取る「双方仲介」は利益相反関係にあるからだ。因みに国際的 M&A 業務で双方から手数料を取ること



はない。M&A 業務で双方仲介手数料を取る文化は極めて稀ではないかと思う。

しかし政府がM&A支援機関登録制度で「双方仲介」を認めたことで、M&Aと利益相反についてどのような議論があったのか知りたくなった。この本はこうした議論の背景と、「双方仲介」への批判とその反論と中小企業庁の考え方を詳しく解説している。因みに当事務所は「仲介」の登録業者だ。中小零細企業向けのM&Aサービスにおいては「仲介」も日本独自の文化と相まって正当化できると判断している。

3, 「バフェットの銘柄選択術」 メアリー・バフェット他 2004年出版

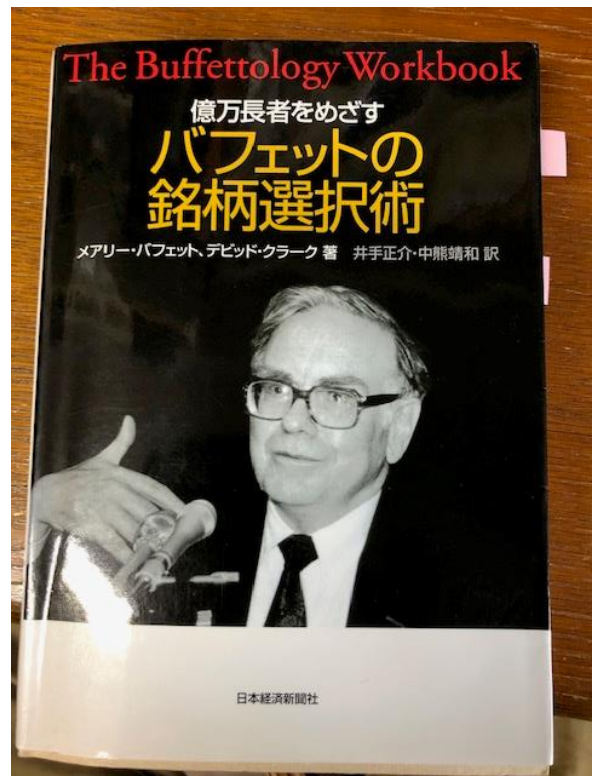
株式投資に関心ある人ならウォーレン・バフェットの名前は聞いたことはあるだろう。私もピーターリンチ、ジョージソロスと並んでバフェットの名前は知っていた。しかしその著書を読んだことは無かった。しかし友人の勧めでこの本を読んだところ株式投資の極意となる珠玉の助言や指摘があった。目から鱗が出るという表現がぴったりの書籍だった。

特に感銘を受けたのは、株式市場には95%の短期指向の株主がおり株価は乱高下する特性があることや、株を買う時と売る時（タイミング）についての考え方だった。そしてどんな銘柄が儲かるかの銘柄選択基準も非常に丁寧に解説している。その理解は2, 3回読んで分かるものでないことも分かった。優れた投資判断は理論を理解するだけでは不十分で心理的鍛錬が不可欠だと思った。これから10年書棚において時々読み直すことになるだろう。

因みにバフェットは10万ドルから投資を始めて300億ドルの金融資産を得たそうだ。今年4月に来日して日本株を推奨した。数年前に日本の総合商社を買ひ、米中対立、コロナ禍、宇露戦争による穀物資源・エネルギー・資源高騰などで総合商社の業績は好調で株価は2倍超高騰した。現在現在の資産は1116億ドル（約15兆円）だ。尚その大半を社会貢献する団体に寄付しているそうだ。

さてバフェット投資の神髄はバイ&ホールドだ。良い株は売らず保持するのが原則だ。では売る株と売る時はいつなのかがポイントになる。最近ではテスラ、TSMC、BYDを売ったとの報道があった。地政学的な要因かもしれない。

余裕資金があるシニアと若者には資産運用の関心が年々高まっている。自分も長年務めた銀行を辞めた10数年前から株式投資を始めた。民主党政権下は最悪だったが第2次安倍政権時代移行はプラスの成果を上げている。株価は企業と当該国の未来を予想するものだ。投資企業の株価を眺めその背景を考えるのが日課になりつつある。ボケ防止に役立っているように思う。



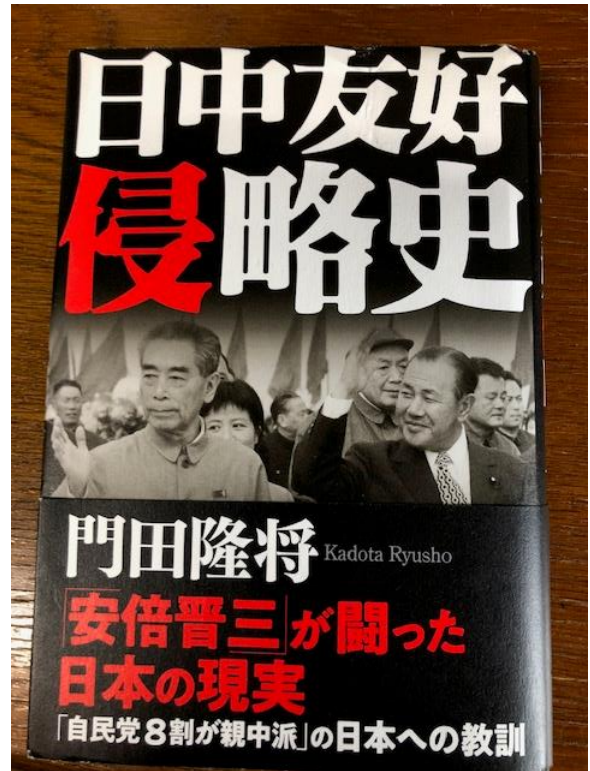
4, 「日中友好侵略史」 門田隆将著 2022年9月出版

門田氏は東北大地震での福島第一原子力発電所事故を題材にした「死の淵を見た男 吉田昌郎・・・」や、戦後中国が台湾の金門島侵略した際、蒋介石の台湾軍を指揮・援護した旧日本軍根本博中将の活躍を描いた「この命、義に捧ぐ・・・」などが有名な作家であり評論家だ。

さてこの本は1970年から現在までの日中関係史だ。書名のとおりその内容は中国との友好は中国による日本侵略の歴史であったと説いている。これまで知らなかった歴史的事実がいろいろ解説されている。自分は2016年に南京を旅行した際に、南京大虐殺博物館を見学した（その旅行記はHPに掲載済み）。その時この博物館の建設資金が日本社会党からの寄付金であることを知り愕然とした。

現在日本には自民党を含め親中派政治家が非常に多い。公明党は日中友好条約の影の立役者で親中派の政党だ。共産党の志位書記長は日中友好議員連盟副会長だ。因みに議員連盟会長は林外務大臣だったが外務大臣就任前に退任した。二階元幹事長がこの4月に就任した。

日中友好に反対する日本人が増加している。それは「友好」という美名に隠された真実に多くの日本人が気づいたからではないか。習近平政権が日本の安保に脅威であることは確かなことだ。

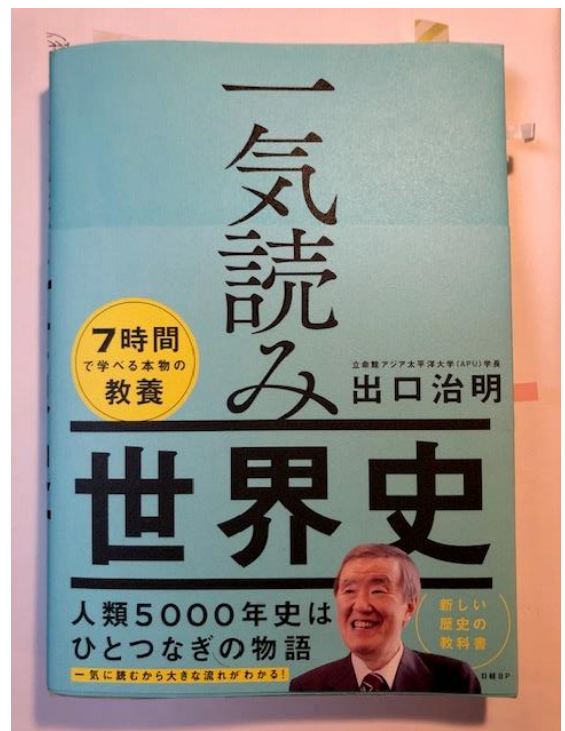


5, 「一気読み世界史」 出口治明著 2023年

出口氏の著書は既に数冊読んでいる。この本は最新作で地球儀を俯瞰して五千年の世界の歴史を書いている。豊富な知識と類まれな構想力に驚く。

まだ前半しか読んでいないが大変面白い。人類はアフリカから始まり、気候変動によってメソポタミア、エジプト、インド、中国と発展したようだ。人類は美味しい食べ物を求める本能や寒さを逃れて暖かい地域に異動（南下）したことなどで歴史が形成された遠因となっているようだ。

この本で5千年の間に何度か寒冷期と温暖期が繰り返し発生したことがわかる。ここ20年欧米はCO2削減が環境保護に不可欠で、カーボンニュートラルが正しい世界戦略となっている。しかし少数だが科学的に疑問の声もあがっている。世界史では2000年前、1000年前、5百年前に寒冷化と温暖化が発生している。尚東西の歴史的大事件が同時期に発生しており、繋がっているようで大変面白かった。



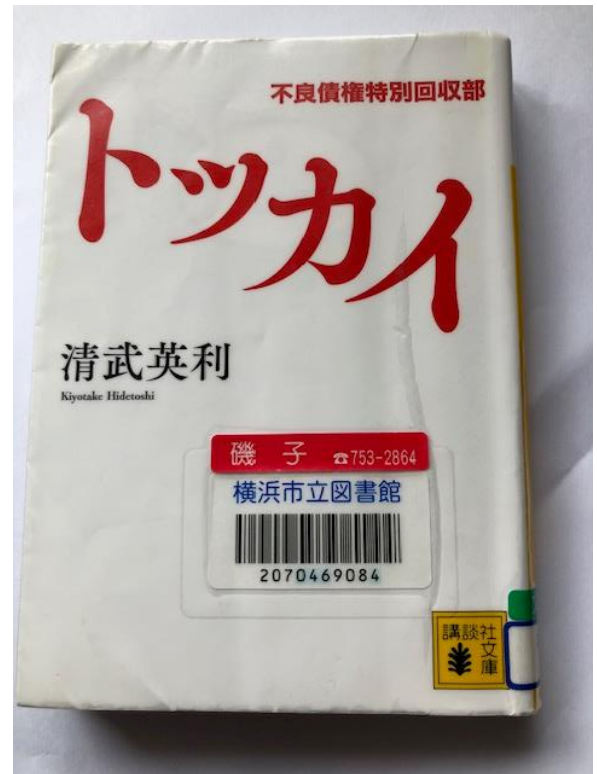
6, 「トツカイ」 清武英利著 2019年初版 (2020年改題して文庫化)

Netflixで「トツカイ」が12回シリーズで今年放映されている。著者は元巨人軍代表で読売グループの渡辺会長と争って退社し、ノンフィクション作家となった。

2019年初版だが、新たな事実が分かる度に改定されあとがきに記載されている。最新の文庫版(2020年12月)あとがきには1996年の住宅金融専門会社への公的資金(税金)導入決定に至る議論が相当難航したことがわかる。94年7月に寺村信之氏から西村吉正氏に銀行局長が交代した。西村氏は退官後大学教授となり、「金融行政の敗因」(1999文春文庫)でバブル経済の生成と崩壊を詳しく解説している。しかし寺村氏は古参官僚として住専への資金投入に批判的であったことがわかる。

さてこの本は1996年設立した住宅金融債権管理機構(現:整理回収機構)の大阪不良債権特別回収部(略してトツカイ)の班長を中心として悪質債務者との闘いを描いたものだ。ノンフィクションなので主人公は殆ど実名で登場する。関西大手不動産会社の末野興産(末野謙一)と京都の西山正彦氏だ。この2人を悪質債務者として不動産バブル前から説き起こしている。住友銀行の罪もコミカルに描いている。西山は不動産で財をなし海外のプライベートバンカーを通じた資金異動で暗躍した人物だ。その後両名共に司法で有罪となり服役した。末野は刑を終えているが西山はまだ服役中だ。

バブル後メガ銀行を始め金融再編は相当進んだが、整理回収機構は今も健在で活躍中だ。末野や西山の隠し財産を探索して回収に務めている。尚Netflixが映像化したドラマはこの本をベースに登場人物などフィクションとなっている。



7, 「サンクチュアリ (聖域)」 2023, 5 放映 配役: 一ノ瀬ワタル、ピエール瀧 他

5月連休から8回シリーズ・Netflixで放映された。日本独特の文化としての相撲を舞台にした物語だ。九州小倉の不良学生が主人公だ。父親の借金返済とマネー目当てに上京するところから始まる。東京の相撲部屋での生活と稽古風景が相当リアルで面白い。

相撲(と土俵)は日本独自の伝統と格式と文化を象徴でありサンクチャリなところがあるのは事実だろう。相撲は海外の人々から奇異に映るらしく放映後海外で人気が沸騰した。第4話の主人公の「猿将」と敵対力士との戦闘シーンは最高だった。社会派ドラマながらコミカルに描いているので興行成績も良好だ。続編も予定されている。

以上